

黄金週間に、遅ればせながら映画スターウォーズの新作を見た。小学生の頃、祖父と見た初期作に心躍らせた記憶がよみがえる。

シリーズの生みの親であるジョージ・ルーカス氏は、その脚本を書き上げるにあたって、**神話学者ジョーゼフ・キャンベル氏**の著作に大きく影響を受けたことで知られる。

キャンベル氏は著書「**千の顔をもつ英雄**」（早川書房）で、**英雄神話には「出立（しゅったつ）→イニシエーション（通過儀礼）→帰還」という共通の構造がある**と唱えた。巻末の風野春樹氏の解説によると、この**普遍的に人類の心をとらえる英雄物語の基本パターンの発見**は多くの作家や映画制作者らに影響を与えたという。

なるほど、あれほど強く引きつけられた物語の下敷きには、神話の構造という仕掛けがあったのか。

*

人を引きつける物語は、米大統領選でも意味を持つ。

「大統領選は、成長の物語をテレビ画面の向こう側とこちら側が共感しながら展開する壮大なドラマです」

上智大総合グローバル学部の前嶋和弘教授はそう指摘する。2008年の大統領選では、頭でっかちの反戦候補と見られていたオバマ上院議員が予備選を通じて成長し、優勢とされたヒラリー・クリントン氏を破ってアフリカ系（黒人）初の大統領になる。

16年、共和党のドナルド・トランプ氏は、選挙に行ったことのないような白人ブルーカラー層のヒーロー。民主党のクリントン氏は組織力と資金力は抜群だが、政治家として完成した存在である分、物語性が弱い。前嶋教授は言う。

「今後、『最初の女性大統領』として共感される物語を紡いでいけるかがポイントとなるでしょう」

*

(略)

先のキャンベル氏は別の著作でこうも言っている。

「**自我や自己保存を第一に考えるのをやめたとき、私たちは、真に英雄的な意識変革を遂げる**」

(略)

<この文書は、「**生駒の神話**」(下記URLをクリック)に掲載されているものです。>

<http://ikomashinwa.cocolog-nifty.com/ikomanoshinwa/>